

12) 社会保険委員会

委員長：関堂 充

担当理事：朝戸 裕貴

委員：秋元 正宇、飯田 拓也、石河 利広、井田夕紀子、宇佐美泰徳
大浦 紀彦、大城 貴史、荻野 浩希、河合建一郎、佐武 利彦
島田 賢一、鈴木 義久、土佐 泰祥、二ノ宮邦稔、野村 正
原岡 剛一、日原 正勝、本多 孝之、松田 健、百澤 明
山本 直人、杠 俊介、横田 和典

顧問：金子 剛

開催年月日：2022年4月20日(金) 全体委員会(学会期間中)。

2022年10月13日(木) 全体委員会(基礎学会期間中)

適宜 e-mail 委員会

活動の概要：

1. 2024年度(令和6年度)診療報酬改訂要望について

2022年7月に2024年度(令和6年度)改訂要望アンケートを学会HP、会員MLにより行った

2022年10月13日(木) 全体委員会(基礎学術集会期間中)にて

要望順位を決定した

要望順位は以下の通りである

a. 新規要望(5個まで)

1. 皮膚・皮下良性腫瘍摘出術露出部長径4-8cm
2. 皮膚・皮下良性腫瘍摘出術露出部長径8cm以上
3. ケロイドに対するステロイド皮内注射
4. 鼻中隔外鼻形成術(耳鼻科学会が主学会で提出)
5. 慢性膿皮症手術

他学会より要望

1. 人工乳房抜去術 乳房オンコプラスチックサージャリー学会より要望
外科学会、乳癌学会も協同
2. 対側乳房縮小・固定術(乳房再建・乳房部分切除後) 乳癌学会より提出
3. ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(内視鏡下によるもの)
4. 組織拡張術による再建手術(内視鏡下によるもの)
3.4 は乳房オンコプラスチックサージャリー学会より提出

b. 改訂要望(8まで)

1. 自家脂肪注入 適応拡大 外科学会 乳房オンコプラスチックサージャリー学会と協同
2. 切開創局所陰圧閉鎖処置機器加算 適応拡大 ハイケアユニットへの拡大
3. 超音波凝固切開装置等加算 適応拡大
4. シロリムスを投与している難治性リンパ管疾患の患者への特定薬剤治療管理料の算定 薬剤血中濃度検査の算定要望 小児外科学会より提出
5. 組織拡張術による再建手術(一連) 乳房(再建手術)の場合の加算
通則14の追加 100/100の算定要望 乳癌学会・外科学会と協同 乳癌学会より提出
6. 眼瞼下制筋前転法の短期滞在手術料の追加 眼科学会より提出

7. 性同一障害乳房縮小術 増点要望 施設調査を行い外保連試案に準じた算定
8. ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）適応拡大 Poland 症候群などへの拡大
日本乳癌学会、乳房オンコプラスチックサージャリー学会と協同

他学会経由で要望

1. 乳房用インプラント 併施の増点
乳房オンコプラスチックサージャリー学会より提出
2. 乳房用組織拡張器・ゲル充填人工乳房償還価格の増額
乳房オンコプラスチックサージャリー学会より提出
11月15日までに手術試案が無いものは新規に作成、外保連に要望項目を提出した
3月24日までに外保連に評価提案書を提出した
2. 外科系学会保険委員会連合（外保連）関連
以下のように委員会、ワーキンググループに所属して活動を行った。
手術委員会：関堂充、飯田拓也
(同) コーディングワーキンググループ：本多孝之
(同) 医療材料・医療機器ワーキンググループ：前川二郎
処置委員会：荻野浩希、山本直人
(同) コーディングワーキンググループ：荻野浩希
検査委員会：荻野浩希、土佐泰祥
実務委員会：関堂充、大城貴史
AI委員会：秋元正宇、大浦紀彦
診療ガイドライン・レジストリの解析結果について厚労省より外保連経由で医療技術評価報告書の提出要望があった
形成外科学会では自家脂肪注入 局所陰圧閉鎖療法適応拡大（縫合創）が該当し、報告を作成予定である(4/10 まで)
3. DPC 関連
令和6年度の診療報酬改訂時に向けてDPC 検討WG 結成された。
秋元委員がMDC16 外傷領域の班長として参加したほか二ノ宮邦稔、荻野浩希、宇佐美泰徳が参加している
令和5年度は主に外傷領域のDPC のツリー簡素化、精緻科について精査し診断群分類見直しについて提言を行う予定である
4. 日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会(金子剛委員長) 関連
疑義解釈委員会では製造販売業者からの医薬品・医療機器の供給停止を審議した。
予定品目については随時メール会議を行い、検討結果を医師会に提出した。今回はドレニゾンテープの供給停止希望について、販売数量が多いこと、代替品がないこと、小児では必須な薬剤であることを主張した。しかし海外での原薬製造が打ち切られることから本年度一杯で供給停止となる。
保険適用検討委員会においては、RECELL 自家細胞採取・非培養細胞混濁液作成キットとエピフィックス (EpiFix) の保険適用について可と答申した。

5. 日本小児外科系関連学会協議会（JPASS）関連

野口昌彦評議員（長野県立こども病院）が参加している。

令和6年度診療報酬改定に向けての要望書作成を行った

- ・レーザー照射における3歳以上6歳未満への幼児加算
- ・扁平母斑における同一部位照射回数の変更（2回→5回）
- ・瞼裂狭小症患者などにおけるK219眼瞼下垂症手術とK223内眦形成術の併用請求

6. 広報活動

①特別セミナー：自家脂肪注入術特別セミナー

学会時の講演に内容を追加し2022年4月よりwebで受講可能となった

座長：金子 剛

朝戸裕貴担当理事

演者：1. 金子 剛：自家脂肪注入術の保険収載要望の現況
結果を踏まえて

2. 水野博司：自家脂肪注入術の基礎とエビデンス

3. 関堂 充：自家脂肪注入術のガイドラインの概略

4. 浅野裕子：脂肪採取の実際 部位の選択と方法

5. 佐武利彦：各種脂肪の精製方法

6. 素輪善弘：脂肪注入の実際－乳房への注入

7. 坂本好昭：脂肪注入の実際－顔面領域への注入

8. 彦坂 信：脂肪注入の実際－鼻咽腔閉鎖不全に対する脂肪注入

8. 垂野香苗（昭和大学 乳腺外科学講座）：

脂肪注入後の画像所見・鑑別診断 （以上敬称略）

受講後、e-test, 証明書発行が可能となった

② 社保委員会主催教育セミナー

（1）社保教育講演 2022年4月20日（金）

司会：関堂 充、朝戸裕貴 担当理事

演者：

1. 荻野浩希：2022年度診療報酬改訂の概要

2. 関堂充：形2022年度診療報酬改定の解説－形成外科分野における改訂

7. ワーキンググループの設置について

①混合診療検討WG

委員長：難波祐三郎（岡山大学）

副委員長：小室 裕造（帝京大学）

委員：金子 剛（国立成育医療研究センター）、菅原康志（リラ・クラニオフィシャルクリニック東京/自治医科大学）、関堂 充（筑波大学）、鳥山和宏（名古屋市立大学）、丹羽幸司（ナグモクリニック大阪/近畿大学）、原岡剛一（神戸大学）、百澤 明（山梨大学）（敬称略 50音順）

今後議論を開始する予定。

②ロボット支援下内視鏡手術推進ワーキンググループ

委員長：上村 哲司

委員：浅野 裕子、井上 義一、梅本 泰孝、大河内真之、小野 真平

檜村 勉、加藤 久和、門田 英輝、金山 幸司、岸 慶太
北 幸紘、坂原 大亮、佐武 利彦、高成 啓介、田代 絢亮
堂後 京子、丹羽 幸司、沼尻 敏明、根本 仁、橋川 和信
東野 琢也、松村 一、三上 太郎、宮本 慎平、村井 信幸
村木 健二、森 裕晃、矢澤 真樹、矢野 智之、山本 直人、
吉田 周平、関堂 充（相談役兼社保委員長）

ロボット手術の保険収載を目指す活動を行った。

12-i) ロボット支援下内視鏡手術推進ワーキンググループ

委員長：上村 哲司

委員：浅野 裕子、井上 義一、梅本 泰孝、大河内真之、小野 真平
檜村 勉、加藤 久和、門田 英輝、金山 幸司、岸 慶太
北 幸紘、坂原 大亮、佐武 利彦、高成 啓介、田代 絢亮
堂後 京子、丹羽 幸司、沼尻 敏明、根本 仁、橋川 和信
東野 琢也、松村 一、三上 太郎、宮本 慎平、村井 信幸
村木 健二、森 裕晃、矢澤 真樹、矢野 智之、山本 直人、
吉田 周平、関堂 充（相談役兼社保委員長）

委員会開催年月日：① 2022年5月17日（オンライン）

② 2022年7月25日（オンライン）

③ 2022年8月23日（オンライン）

④ 2022年10月21日（オンライン）

⑤ 2022年11月29日（オンライン）

主な議題：「ロボット支援下内視鏡手術推進 WG」の活動報告

活動の概要：

1. ロボット支援手術制度設計委員会（委員長佐武利彦、副委員長上村哲司）
2. ロボット支援手術教育プログラム作成委員会（委員長浅野裕子、副委員長矢野智之）
3. ロボット支援手術ガイドライン作成委員会（委員長橋川和信、副委員長井上義一）
4. ロボット支援手術学術プログラム作成委員会（委員長檜村勉、副委員長堂後京子）
5. 新たなロボット手術支援ロボット開発推進委員会（委員長橋川和信、副委員長門田英輝）
6. ロボット支援手術全般に応用可能なその他の先進技術推進委員会（委員長小野真平、副委員長宮本慎平）

本年度は、上記6つの小委員会に分かれ活動を行なった。

詳細は、

- 1, 2022年10月21日（オンライン）に、藤田医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の楯谷一郎先生とオンライン面談を行い、TORS (TransOral Robotic Surgery) の薬事承認、保険収載までの説明を受けた。
- 2, ロボット支援下内視鏡手術推進 WG から形成外科領域の内視鏡手術の実態調査を行う議題を日本形成外科学会理事会に提出し、承認され、2020年度と2021年度のデータ収集を行った（2022年12月末締め切り）。
- 3, 2024年度の診療報酬改定に向け、外保連手術委員会で、下記5つの形成外科領域内視鏡下手術の外保連試案第9.4版への掲載が認められた（ロボット支援下

手術の承認には、まず内視鏡下手術の承認が必要なため)。これらの手術を新規手術として申請することになり、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会から外保連経由で厚労省に提出するための資料として、内視鏡下手術の指針(資料1)を作成した。

術式

- ・乳房再建術(ゲル充填人工乳房によるもの)(内視鏡下)
- ・乳房皮膚延長術(内視鏡下)
- ・乳房再建術・一次的に行うもの(内視鏡下)
- ・乳房再建術・二次的に行うもの(内視鏡下)
- ・動脈皮弁術、筋(皮)弁術(内視鏡下)

その他

- ・第65回日本形成外科学会総会(2022.4.21;大阪)シンポジウム「形成外科領域におけるロボット支援下手術手技の現状と展望」の開催
- ・第31回日本形成外科学会基礎学術集会(2022.10.14;岡山)International Sessions Symposium:Robotic Surgery Technologyの開催
- ・10th Annual symposium of RAMSES (The Robotic Assisted Microsurgical & Endoscopic Society Nov.4-5 2022;Florida USA)で、2025年秋に日本でのRAMSES開催が決定された(会長 上村哲司)。
- ・第35回日本内視鏡外科学会(2022.12.2;神戸) パネルディスカッション WGメンバーで「形成外科領域のロボット支援下手術手技の展望と課題」の開催
- ・第28回日本形成外科手術手技学会(2023.3.4 川崎)特別企画「日本形成外科学会ロボット支援下内視鏡手術WG企画」で、形成外科領域の内視鏡手術の実態調査(2020,2021年度)を報告した。総合討論では、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会から外保連案として厚労省に提出する指針(資料1)の公開

形成外科分野の内視鏡下手術を行うための指針 (案)

(A) 術者条件

1. 形成外科専門医であること。
2. 該当する手術、手術部位の解剖、内視鏡手術機器に関する十分な知識を有していること。
3. 内視鏡手術手技を修得しており、その意義について理解していること。
4. 従来の外科手術で同様の手術ができること。

【ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（内視鏡下によるもの）の場合】

- ・術者は日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会による「乳癌および乳腺腫瘍術後の乳房再建を目的としたゲル充填人工乳房および皮膚拡張器使用基準」が定める責任医師または実施医師であり、基準を遵守していること。
- ・術者は切開、内視鏡下にかかわらず、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 3 例以上の術者としての経験を有していること。

【組織拡張術による再建手術（内視鏡下によるもの）の場合】

- ・術者は日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会による「乳癌および乳腺腫瘍術後の乳房再建を目的としたゲル充填人工乳房および皮膚拡張器使用基準」が定める責任医師または実施医師であり、基準を遵守していること。
- ・術者は切開、内視鏡下にかかわらず、組織拡張術による再建手術 3 例以上の術者としての経験を有していること。

【動脈皮弁術、筋（皮）弁を用いた乳房再建術（内視鏡下によるもの）一次的に行うものの場合】

- ・術者は切開、内視鏡下にかかわらず、動脈皮弁術、筋（皮）弁を用いた乳房再建術（一次的に行うもの） 3 例以上の術者としての経験を有していること。

【動脈皮弁術、筋（皮）弁を用いた乳房再建術（内視鏡下によるもの）二次的に行うものの場合】

- ・術者は切開、内視鏡下にかかわらず、動脈皮弁術、筋（皮）弁を用いた乳房再建術（二次的に行うもの） 3 例以上の術者としての経験を有していること。

【動脈皮弁術、筋（皮）弁術（内視鏡下によるもの）の場合】

- ・術者は切開、内視鏡下にかかわらず、動脈皮弁術、筋（皮）弁術 3 例以上の術者としての経験を有していること。

(B) 施設条件

1. 日本形成外科学会における形成外科領域専門研修基幹施設、連携施設、または連携候補施設であること。
2. 常勤の形成外科専門医が1名以上在籍していること。
3. 術者が常勤医として在籍していること。
4. 常勤麻酔医が1名以上在籍していること。
5. 緊急手術の実施体制を有していること。
6. 24時間の院内検査実施体制を有していること。
7. 医療機器の保守管理体制を有していること。
8. 医療安全管理委員会を有していること
9. NCDに各施設で実施施設登録申請を行い、承認を受けたのち手術を実施すること。また、手術を実施した場合、NCDの症例登録システムに沿って遅滞なく症例登録を行うこと。

【ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（内視鏡下によるもの）の場合】

厚生労働省の定める特掲診療料の施設基準「第61の6 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）」を満たしていること。

【組織拡張術による再建手術（内視鏡下によるもの）の場合】

厚生労働省の定める特掲診療料の施設基準「第57の9 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）」を満たしていること。